

明治卅六年度鹿兒島縣水產試驗場事業報告

目次

一 試驗場設立ノ趣旨	一
一 諸規程	二
水產試驗場規程	二
處務細則	四
講話并傳習ニ關スル規程	七
試驗用具貸與規程	九
一 經費豫算	十
一 講話	十二
一 羽鯉巾着網試驗	十二
試驗ノ目的	十二
本網撰定ノ理由	十二
網ノ新調價格	十三
網ノ構造	十六
網船ノ構造	十八
網船ノ新調價額	二十三
試驗地方ノ海況	二十六

目次

試験ノ方法	二二六
網ノ使用法	二二七
試験日誌	二二九
一 いわし揚繰網試験	三十一
試験ノ主旨	三十一
網ノ新調價額	三十一
網ノ構造	三十四
試験地方ノ海況	三十五
試験ノ方法	三十六
網ノ使用法	三十七
試験日誌	三十七
一 鯉餌料試験	四十三
試験ノ主旨	四十三
唧筒試験	四十四
活ケ籠試験	四十八
籾試験	五十
罎運搬試験	五十一
一 ふか延繩貸與試験	五十二

試験ノ主旨	五十二
延繩ノ構造	五十三
漁場	五十三
漁期	五十四
餌料	五十四
使用法	五十五
漁獲	五十五
一ばせうかぢき延繩貸與試験	五十六
試験ノ主旨	五十六
延繩ノ構造	五十六
漁場	五十七
漁期	五十七
餌料	五十七
使用法	五十七
漁獲	五十八

鹿兒島縣水產試驗場報告

試驗場設立ノ趣旨

九州ノ地形タル固ト岬灣ノ出入島嶼ノ散在ニ富ム就中本縣ハ東面ニ有明灣ヲ有シ薩隅ノ兩半島ハ中央ニ錦江灣ナル一大灣ヲ擁シ南面ニ佐多開聞坊岬西面ニ野間羽島ノ岬角ヲ有ス更ニ南方ノ洋上ニハ熊毛諸島大島各島羅列シ西北方ニハ甌島長島諸島散在ス地形夫レ此ノ如クナルヲ以テ海岸線程頗ル長ク約四百有餘里ヲ有ス之レヲ全國各府縣ニ比較スレバ長崎縣ノ六百餘里ヲ有シテ僅カニ本縣ニ冠絶スルアルノミ此ノ故ニ沿岸自ラ千態萬象ニ富ミ或ハ斷崖峭壁アリ叢林ノ臨ムアリ或ハ蜿々數里ニ亘ル砂濱アリ隨テ灣澳阜頭漁船碇繫ノ便甚ダ少カラス

加之暖潮ハ四時常ニ此等沿岸ヲ圍流シ水族之レニ伴フテ洄游饒カナリ此ヲ以テ沿岸ノ村邑古來水產業ニ從事スル者夥シク現時專業者二萬二千七百余人兼業者三萬八千四百余人ヲ有ス豈ニ盛ナラヌトセンヤ然レモ願ミテ收穫ノ現象如何ヲ看ルトキハ轉タ憮然タラサルヲ得サルモノアリ乃チ最近ノ農商務統計ニ依リ各府縣ニ於ケル海岸線一里ヨリ生スル四ケ年間平均漁獲高ヲ對照スレハ富山縣ヲ第一位トシ神奈川、三重、大阪、静岡、愛知、高知、岩手、岡山、兵庫、山形、新潟、大分、福岡、宮崎、和歌山、石川、鳥取、山口、福井、青森、廣島、香川、熊本、島根、宮城、德島、京都之レニ次キ本縣ハ漸ク第二十八位ヲ保ツニ過キス惟フニ其爰ニ至レル所以ノモノ幾多ノ原因スル所アルヘシト雖モ從來交通不便ナル地理的狀態ニ依リ漁業者中ノ多數ハ世ノ進運ニ伴フ能ハスシテ未ダ舊套ヲ脱スル能ハサルモノ其要素タルナカラシヤ

若シ夫レ獎勵其宜シキヲ得當業者亦新業ノ開發ニ孜々勉勵スルアラハ將來計ルヘカラサル產額ヲ增進センコト疑ヒナシ而シテ之レカ獎勵ノ方法ハ一二ニシテ足ラスト雖モ須ラク獎勵機關ヲ特設シ苟モ有利事業ト認ムルモノハ之ヲ實地ニ試驗シ其成績顯著ナルモノハ模範トシ以テ普及ヲ圖リ成績不良ナルモノハ以テ其企業ヲ戒ムルニアリ蓋シ漁業ノ事タルヤ茫漠タル洋上

ヲ以テ地上ニ替ユルノ作業タルノミナラス巨資ヲ要スル事業タルカ故ニ收利ノ見込確實ナリトスルモ往々不時ノ天災ニ支障セラル、ノ危険ヲ想フテ投資ノ英斷ニ出ツル能ハサル者アリ又養殖及製造業ニ在リテモ販路ノ如何ヲ憂慮シ或ハ偶々爲サントスルモノモ其方法ヲ詳悉セサルカ爲メ終ニ改善若ハ新企畫ノ舉ニ出ツル能ハサル者アリ是レ即チ獎勵機關タル試驗場ヲ設立セサルヘカラストシ竟ニ三十六年度ニ於テ之レカ開場ヲ見タル所以ナリ是ヲ本縣水産試驗場設立ノ主旨トナス

鹿兒島縣水産試驗場規程

第一條 鹿兒島縣水産試驗場ハ左ノ業務ヲ行フモノトス

- 一 漁撈、製造、養殖ニ關スル試驗
- 二 蕃殖保護調査
- 三 漁場調査及探檢
- 四 漁具調査
- 五 重要生物調査
- 六 分拆及鑑定
- 七 漁撈製造養殖ニ關スル經濟的調査
- 八 魚兒介苗ノ配付
- 九 講話及傳習
- 十 質問應答

第二條 場長ハ知事ノ命ヲ受ケ場務ヲ處理シ場員ヲ監督ス
技師、助手、場長ノ命ヲ受ケ業務ニ從事ス

書記ハ場長ノ命ヲ受ケ庶務會計ノ事務ニ從事ス

第三條 場長ハ場員ノ業務ヲ輔佐セシムル爲メ助手ヲ任用スルコトヲ得

第四條 場長事故アルトキハ上席ノ場員其事務ヲ代理ス

第五條 左ノ各號ニ該當スル事項ハ場長直ニ之ヲ處分スルコトヲ得

一 場員ノ管内出張

二 場員ノ事務分擔

三 場員ノ歸省看護墓參轉地療養其他私事旅行賜暇願ノ許可及除服出仕ヲ命スルコト

四 魚兒介苗ノ配付ニ關スルコト

五 試驗用具ノ貸與ニ關スルコト

六 傳習生ノ募集及養成

七 豫算ノ範圍内ニ於ケル物品ノ購入修理賣却ニ關スルコト

八 雇員備漁夫小使ノ進退

前各號ノ外事ノ輕易ニ屬スルモノ

第六條 場長ハ試驗ノ設計順序方法ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 場長ハ庶務細則ヲ作り知事ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 場長ハ業務ノ試驗成績及調査ノ結果ハ毎年其終期ニ於テ知事ニ報告スヘシ

第九條 場長ハ試驗ノ成績ヲ發表セントスルトキハ知事ノ承認ヲ受クヘシ

第十條 場長ハ場務ニ關シ職名若ハ場名ヲ以テ文書ヲ發受スルコトヲ得

第十一條 分拆及鑑定ノ求ニ應シ其結果ヲ依頼者ニ通知スルトキハ場長ハ其擔任者ト共ニ通知書ニ署名捺印スヘシ

第十二條 物品取扱及服務等ニ關シテハ本廳ノ各現程ヲ準用ス

鹿兒島縣水產試驗場處務細則

第一章 事務分掌

第一條 本場ニ業務部庶務部ヲ置ク其分掌左ノ如シ

業務部

- 一 漁撈製造養殖ノ試驗ニ關スルコト
- 二 蕃殖保護調査ニ關スルコト
- 三 漁場調査及探檢ニ關スルコト
- 四 漁具調査ニ關スルコト
- 五 重要生物調査ニ關スルコト
- 六 分拆及鑑定ニ關スルコト
- 七 漁撈製造養殖業ノ經濟的調査ニ關スルコト
- 八 魚兒介苗ノ配付ニ關スルコト
- 九 講話及傳習ニ關スルコト
- 十 質問應答ニ關スルコト
- 十一 業務報告編纂ニ關スルコト

庶務部

- 一 文書物品ノ受付發送ニ關スルコト

- 二 官印保管ニ關スルコト
- 三 文書物品ノ整理保管ニ關スルコト
- 四 印刷ニ關スルコト
- 五 物品ノ購入修理賣却ニ關スルコト
- 六 會計豫算收支決算ニ關スルコト
- 七 經費出納ニ關スルコト
- 八 財産管理ニ關スルコト
- 九 小使ノ身分ニ關スルコト
- 十 場内ノ取締ニ關スルコト
- 十一 他部ノ主管ニ屬セザルコト

第二章 處務順序

第二條 本場ノ事務ハ總テ場長ノ裁決ヲ經テ施行スルモノトス

第三條 本場ニ到達スル文書物品ハ開封ノ上其件名及品名ヲ受付簿ニ登載シ場長ノ檢閲ヲ受ケタル後之ヲ主任者ニ配付シ受付簿ニ受領者ノ檢印ヲ受ク可シ

但シ親展書ハ封緘ノ儘受付簿ニ登載シ場長宛ノモノハ其簿冊ト共ニ場長ニ其他ハ直ニ宛名ノモノニ配付シテ受領印ヲ受クヘシ

第四條 配付ヲ受ケタル文書ハ速ニ處分案ヲ起草シ場長ノ裁決ヲ經テ施行ス可シ其處分ヲ要セサルモノハ回覽ニ供スヘシ

第五條 庶務部ニ於テ各主任者ヨリ發送スヘキ文書ノ回付ヲ受ケタルトキハ速ニ淨寫シ發送簿ニ記入シ發送ノ手續ヲナス可シ

郵便電信若ハ小包發送ノ場合ハ前項ノ外郵便切手受拂簿ニ記入シ通運便ニ托スルトキハ發送簿ニ其旨附記スヘシ

ニ於テ完結シタル文書ハ左ノ三類ニ分チ庶務部ニ於テ之ヲ綴理シ後日ノ參考ニ便ナラシムヘシ

第一類 永久保存スヘキモノ

第二類 三ヶ年間保存スヘキモノ

第三類 壹ヶ年間保存スヘキモノ

第七條 翌年度施行ス可キ試験及其他ノ計畫ハ各主任者ニ於テ五月末日マテニ取調ヘ場長ニ差出ス可シ

第八條 試験其他ノ成績ハ各擔任者ニ於テ其結了ノ日ヨリ一週間内ニ場長ニ詳細ノ報告書ヲ差出スヘシ

第九條 書籍圖書其他保存スベキ者ハ受付ノ都度簿冊ニ登記シ保存スヘシ

第三章 服務心得

第十條 場員登場シタルトキハ出勤簿ニ捺印スベシ

第十一條 場員疾病又ハ事故アリテ登場シ能ハサルトキハ其事由ヲ記シテ届出ヅベシ若シ疾病ノ爲メ缺勤七日以上ニ涉ルト

キハ醫師ノ診断書ヲ添ヘ届出ヘシ

第十二條 忌服ヲ受ケタルトキハ定期ノ日數ヲ記シテ届出ヘシ

第十三條 私事ノ旅行又ハ歸省セントスルトキハ場長ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 場員ハ事務ノ繁閑ニ依リ互ニ相補助スヘシ

第十五條 宿直ハ技手及書記ノ内一人宛トス

但シ代直ノ必要アル時ハ場長ノ許可ヲ受クベシ

第十六條 宿直ハ退場時刻ヨリ翌日登場時刻マテトス

第十七條 宿直中ハ官印及鍵箱ヲ管守シ且ツ戸締警火其他場内一切ノ取締ニ任スルモノトス

第十八條 宿直員ハ宿直ノ月日氏名并ニ宿直中起リシ要件及ヒ取扱ヒタル一切ノ事項ヲ宿直簿ニ記載ス可シ

第十九條 宿直中ニ收受發送スル文書ハ左ノ各項ニ據リ處理スベシ

但親展書ハ封緘ノ儘送付簿ニ登載シテ場長宛ノモノハ送付簿ト共ニ場長ニ其他ハ直ニ宛名ノモノニ配付シテ受領印ヲ受クヘシ

一 場長及場名宛ノ電報及至急ノ表記アル封書ハ開緘ノ上直ニ各主任者ニ送附スベシ

一 通常文書ハ其員數ヲ宿直簿ニ記載シ翌朝之ヲ庶務部ニ引繼ク可シ

一 至急發送ヲ要スルモノハ第五條ノ規定ニ準シ取扱フ可シ

第二十條 宿直中近火又ハ非常ノ事變起リタルキハ直ニ場長及場員ニ急報シ傍ラ臨機ノ處置ヲナス可シ

第二十一條 宿直ハ左ノ各項ノ一ニ當ルモノ、外ハ一切免除セズ

一 忌引中ノモノ

一 宿直ノ通知ヲ受クルノ當日缺勤ノモノ

一 出張巡回ヲ命セラレ宿直相當ノ翌日ヨリ發足スルモノ

第二十二條 本規定ニ定メナキ事項ハ隨時場長ニ於テ處理ス可キモノトス

講話并傳習ニ關スル規程

第一條 講話及傳習ハ左ノ事項ヲ口授又ハ實地ニ教授ス

一 漁 撈 一 製 造 一 養 殖

第二條 講話及傳習ハ本場ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ請求ヲ容レタルトキ之レヲ開始ス

第三條 講話及傳習ヲ別チテ短期長期ノ二種トス

短期ノ講話及傳習トハ多數ノ當業者ヲ集メテ本場試験ノ成績又ハ必要ナル事項ニ付キ講話又ハ傳習ヲナスヲ謂ヒ長期ノ講話及傳習トハ第五條ノ資格ヲ有スルモノニ限り水産ノ全般又ハ其ノ一部ニ付秩序ヲ遂フテ講話若ハ傳習ヲナスヲ謂フ

第四條 聽講若ハ傳習生ハ左ノ資格ヲ有スルモノタルヘシ

一 年齡拾六歲以上ノモノ

一 品行方正ナルモノ

一 文筆ノ心得アルモノ 但シ文筆ノ心得ナキモノト雖モ講師ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限りニアラス

第五條 長期ノ講話生若ハ傳習生タラントスルモノハ居住地ノ市町村役場ヲ經別記書式ニ依リ本場ニ願出ヘシ

第六條 生徒數ハ講話ノ部ニ於テ壹ケ所貳拾名以上傳習ノ部ニ於テ壹ケ所拾名以上ニアラサレハ開始セス

第七條 生徒ニシテ疾病又ハ事故ニ依リ退場セントスルモノハ其ノ旨講師ニ届出許可ヲ受クヘシ

第八條 生徒ニシテ其ノ體面ヲ汚ス所爲アルモノハ退場セシムルコトアルヘシ

第九條 請求ニ依ル講話又ハ傳習ニ要スル費用ハ其ノ全部又ハ一部ヲ請求者ニ負擔セシムルコトアルヘシ

第十條 長期傳習生ハ其ノ修得シタル事項ヲ實地ニ應用シ其ノ結果ヲ本場ニ報告スルノ義務アルモノトス

第十一條 長期ノ講話及傳習ノ生徒ニレテ成績善良ナルモノニハ修業證ヲ授與スルコトアルヘシ

願 書 式

長期講話聽講(長期傳習)生採用願

今般御開設ノ長期講話聽講生(長期傳習生)志望ニ候間御採用相成度此段相願候也

住 所

私 儀

年 月 日

何

某

印

鹿兒島縣水產試驗場長何某殿

生年月日

試驗用具貸與規程

- 第一條 本場試驗用具ハ本規程ニ依リ希望者ニ貸與スルコトアルヘシ
- 第二條 試驗用具ノ貸與ヲ請ハントスルモノハ貸與願書式ニ依リ居住地市町村役場ヲ經テ場長ニ出願スヘシ
- 第三條 前條ノ許可ヲ得タルモノハ左ノ事項ヲ恪守スヘシ
 - 一 作業上必要ナル設備ヲ爲シ着業前本場ニ届出デ檢閲ヲ受クルコト
 - 二 貸與用具ハ保管ノ責ニ任シ修繕又ハ保存費并運賃等ヲ負擔スルコト
 - 三 場長ノ指定シタル項目ニ據リ事業修了後二十日以内ニ報告書提出ノコト
 - 四 場長ノ定ムル所ニ據リ漁獲物製造物ノ現品若クハ借料ヲ納入スルコト
- 第四條 場長ニ於テ必要ト認ムルトキハ場員ヲシテ事業ノ監督又ハ用具ノ檢閲ヲ爲サシムルコトアルヘシ
此場合ニ於テ被貸與者ハ場員ノ指揮ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第五條 用具貸與中修繕ニ堪ヘサル毀損又ハ紛失シタルトキハ現品若ハ相當ノ代價ヲ賠償セシム但場長ニ於テ已ムヲ得サル
天災ニ因リタルモノト認メタルトキハ此限リニアラス
- 第六條 場長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ被貸與者ニシテ本規程ニ違背シタルトキハ貸與期間中ト雖モ用具ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

貸與願書式

試驗用具貸與規程

何々貸與願

一 何々數量

但付屬品何々若ハ内譯何々

一 使用ノ目的

一 使用ノ場所

一 使用ノ期間

右貸與御許可相成度試驗用具貸與規程ニ依リ此段相願候也

明治 年 月 日

住 所

職 業

姓

名 (印)

鹿兒島縣試驗場長何某殿

經費豫算

本年度ニ於ケル經費ノ豫算ハ八千五百五拾九圓四拾錢ニシテ其内譯ハ左ノ如シ

一金八千五百五拾九圓四拾錢

内 譯

第一目 俸給 金千六拾圓

内

場長年俸

金百圓

技手俸給 金七百八拾圓

書記俸給 金百八拾圓

第二目 雜給 金千六百參拾五圓四拾錢

內 譯

助手給 金貳百拾六圓

小使給 金七拾貳圓

常傭人夫給 金貳百貳拾四圓

臨時傭夫給 金四百拾參圓四拾錢

旅費 金七百圓

勉勵賞與 金拾圓

第三目 場費 金五百圓

內 譯

備品費 金百四拾五圓八拾四錢

筆紙墨文具費 金四拾貳圓

消耗品費 金四拾六圓拾六錢

圖書及印刷費 金六拾四圓

通信運搬費 金百九拾六圓

雜費 金六圓

第四目 試驗費 金五千參百六拾四圓

經費豫算

内譯

漁網費 金參千九百八拾參圓

漁船及附屬品 金八百八拾壹圓

貯藏用 金貳百六拾圓

借船料 金貳百四拾圓

講話

明治三十六年六月中一週間川邊郡西加世田村ニ於テ漁業者子弟ヲ集メ漁撈科講習會ヲ開催シ又同年八月中十日間熊毛郡屋久島ニ於テ熊毛郡教育會ノ開設ニ係ル夏期教員講習會ニ於テ講話ヲ爲シタリ講話項目ノ概要左ノ如シ

西加世田村講習會講話項目

一、水産總論 二、漁撈大意

屋久島講習會講話項目

一、水産總論 二、漁撈大意 三、製造大意 四、養殖大意 五、水産動物學大意

羽鯉巾着網試驗

試驗ノ目的 本縣沿海ハ殆ト黒潮ノ洗フ處ニシテ鯉族ノ棲息非常ニ多ク就中羽鯉ノ如キハ群游最モ夥シト雖從來一本釣

并ニ大敷網地曳網ノ外漁法ナク其一ヶ年間ノ産額僅ニ數萬圓ヲ出テス此ニ於テ本場ハ之レカ沖取網トシテ巾着網ヲ調製シ先

ツ羽鯉ハ巾着網ヲ以テ能ク捕獲シ得可キヤ否ヲ攻究シ併セテ經濟上ノ得失如何ヲ比較センカ爲メ試驗ニ着手セリ

本網撰定ノ理由 羽鯉漁具トシテ未ダ良好ノ沖取網ナキハ已ニ述ヘタル如シ此故ニ之レカ試驗ヲナサントスルニ當テ

ハ如何ナルモノヲ撰定ス可キカハ大ニ研究ヲ要スルトコロナリ

抑モ巾着網ハ米國ニ於テ最モ盛ニ使用セラレ本邦ニ於テハ十數年前ヨリ始メテ使用セラレタルモノトス從來本邦ニ於ケル大規模ノ網具ニ比スレハ構造極メテ簡單ナルノミナラス調製費モ亦比較的多額ナラス之ヲ使用スルニ漁船二艘乗込漁夫凡ソ三十四五名ニシテ足り之レガ使用ノ區域ハ潮流ノ極メテ急馳ナラサル限リハ水深二十五六尋以上ノ處(網ノ大小ニヨリテ差違ヲ生ス可キコト勿論ナリ)ナレハ底質ノ如何ヲ問ハス砂若クハ砂泥質ノ處ナレハ魚群ヲ追フテ隨所ニ使用シ得ヘク(水深十尋以下ナレハ網裾環網ニ纏絡シテ却テ完全ニ使スルコトヲ得ス)特ニ晝間ノ使用ニ止マラス夜間焚寄方ニ依リテモ亦使用スルコトヲ得ル等網具トシテノ要件ヲ具有スルコト本邦現今ノ網具中此網ノ右ニ出ルモノアラサルヘシ然ルニ本縣近海ニ來遊スル羽鯉ハ水深凡ソ十尋乃至三四十尋距岸遠カラサル處ヲ去來スルモノ頗ル多ク之レ等ノ漁道中ニハ巾着網ノ使用ニ適スル處亦尠カラス之レ試験網トシテ本網ヲ撰定シタル所以ナリ

網ノ新調價額 明治三十六年三月東京ニ於テ網一張調製ノ價額見積左ノ如シ

鯉巾着網調製費見積書

一金壹千貳百六拾圓七拾貳錢七厘也

內 譯

一金七拾四圓八拾錢也

和製綿糸(原糸ハ凡テ二十番手ヲ用ユ)五號糸二寸目百掛網地三百四十間代一間(一間或ハ一尋ト稱スルハ曲尺五尺ニシテ次下凡テ相同シ)ニ付金貳拾貳錢替

一金五百參拾五圓八拾錢也

和製綿糸四號糸二寸目百掛網地二千七百二十間代一間ニ付金拾九錢替

一金貳拾四圓〇八錢也

和製綿糸五號糸三寸目百掛拾貳間代一間ニ付金拾壹錢五厘替

一金七圓八拾錢也

和製綿糸六號糸二寸五分目掛三百間代一間ニ付金貳錢六厘替

一金九圓拾七錢八厘也

和製綿糸六號糸三寸目四掛三百五十三間代一間ニ付金貳錢六厘替

一金五圓參拾錢四厘

和製綿糸五號糸二寸五分目四掛貳百四間代一間ニ付金貳錢六厘替

一金拾七圓也

棕栝三打經三分綱右撚左撚各二百五十間宛合計五百間代一間ニ付金參錢四厘替

一金拾參圓七拾五錢也

マニラ綱經三分二百五拾間代一間ニ付金五錢五厘替

一金拾圓也

マニラ綱經二分五厘貳百五十間代一間ニ付金四錢替

一金七圓四拾貳錢五厘也

マニラ綱經三分百三十五間代一間ニ付金五錢五厘替

一金參圓五拾貳錢也

マニラ經二分五厘綱右撚左撚各四拾四間宛合計八拾八間代一間ニ付金四錢替

一金貳拾貳圓五拾錢也

麻經三分五厘綱二百二十五間代一間ニ付金拾錢替

一金百八圓五拾錢也

麻三打十二本經六分綱右撚左撚各百五十五間宛合計參百十間代一間ニ付金參拾五錢替

一金拾參圓五拾錢也

綿糸五十號四貫五百目代一貫目ニ付金參圓替

一金參拾參圓也

綿糸四號拾貳貫目代一貫目ニ付金貳圓七拾五錢替

一金貳圓七拾五錢也

綿糸五號一貫目代

一金九拾五圓貳拾貳錢也

桐長四寸五分經四寸九浮子一個九十匁以上ノモノ千五十八個代一個ニ付金九錢替

一金拾九圓貳拾錢也

鉛沈子二十四貫目一貫目ニ付金八拾錢替

一金拾九圓也

鉛製分銅貳拾五貫目ノモノ一個代

一拾五圓也

眞鍮製環金ノ經五分環ノ內經三寸ノモノ三十個代一個ニ付金五拾錢替

一金四拾貳圓也

滑車バテント七分綱用十個同四分綱用一個二重滑車バテント四分綱用一個合計十二個代一個ニ付金參圓五拾錢平均

一金貳圓也

眞鍮製撚戽器一個代

一金貳拾圓也

「ダビット」鋒製長六尺徑二寸ノモノ二本代一本ニ付金拾圓替

一金四拾五圓九拾錢也

檫皮二百七十貫目代一貫目ニ付金拾七錢替

一金七圓五拾錢也

阿仙藥五十斤代一斤ニ付金拾五錢替

一金百貳拾五圓也

網仕立手間二百五十人分一人ニ付金五拾錢宛

網ノ構造 前記ノ材料ヲ以テ作成シタル網ノ構造ハ左ノ如シ

全體周縁ノ尺度

全長(上下縁共) 貳百五拾尋

巾

中央 貳拾九尋

兩端 貳拾貳尋

網地縫合

本網ハ左右同一ナルヲ以テ今其左網ノミニ就テ記ス

(イ)(ロ)ハ魚捕ニシテ綿糸十五本撚二寸目横百掛十尋切ノ網地各八反宛(凡テ百六十尋左右網合シテ三百二十尋)及ヒ同上
横五十掛十尋切ノモノ二反(凡テ二十尋左右網合シテ四十尋)ヲ横目ニ縫合ス

(ハ)ヨリ(ツ)ニ至ル間ハ綿糸十二本撚二寸目横百掛十尋切ノ網地ヲ各八反宛横目ニ縫合ス(凡テ千三百六十尋左右網合シテ二千七百二十尋)

(ネ)ハ綿糸十五本撚三寸目横百掛二尋切ノ網地二十八反ヲ縦目ニ縫合ス(凡テ五十六尋左右網合シテ百十二尋トス)

上縁網ハ綿糸十八本撚二寸五分目横四掛百五十尋(左右網合シテ三百尋)

下縁網ハ綿糸十八本撚三寸目横四掛百五十尋(左右網合シテ三百尋)

兩端縁網ハ綿糸十八本撚三寸目横四掛各二十六尋半

中央及魚捕部ト兩翼部トノはがいニハ綿糸十五本撚二寸五分目横四掛ノモノ各三十四尋宛ヲ用ユ

周縁ノ構造

浮子網ハ棕梠三打徑三分左撚右撚ノモノ二條各長百二十五尋(左右合シテ各長二百五十尋)ニシテ一條ハ浮子ノ中心ヲ貫通セ

シメ一條ハ浮子ノ外方ニ結附ス

浮子ハ桐製丸形ニシテ一尋間ニ四個ヲ結附ス

兩端縁網ノ外方ニ「マニラ」網徑二分五厘左撚右撚ノモノ貳拾貳尋宛ヲ結附ス

沈子網ハ「マニラ」徑三分百二十五尋(左右合シテ二百五十尋)ノモノヲ沈子ニ貫通セシメ他ニ徑二分五厘長百二十五尋(左右

合シテ二百五十尋)ノ網ヲ沈子ノ外方ニ結附ス

沈子ハ鉛製ニシテ凡ソ徑九分長サ一寸三分一個ノ重量四十匁許總重量二十四貫目トス

環網ハ「マニラ」徑三分ノモノ四尋半ニシテ之レカ中央ニ環ヲ結附シ之レヲ四尋隔ニ沈子網ニ結附スルコト圖ニ示スカ如ク

ス

環ハ眞鍮製ニシテ内徑三寸金ノ徑五分ノモノヲ左右網ニ各十五個ツ、合計三十個ヲ用ユ

括網ハ麻三打十二本合徑六分ノモノ左撚右撚各百五十五尋ツ、合計三百十尋トス

燃戻器ハ眞鍮製ニシテ回轉自在ニ且ツ堅牢ナルモノ中央ニ一個ヲ用ユルコト圖ニ示スカ如シ

分銅ハ鉛製重量二十五貫目ニシテ其形圖ニ示スガ如シ

而シテ(イ)ニハ分銅綱ヲ嵌通セシム可キ滑車ヲ結附シ(ロ)(ハ)ニハ括綱ヲ嵌通セシム可キ滑車ヲ結附ス

分銅綱ハ麻徑三分五厘長サ凡ソ百尋

「ダビット」ハ鐵製徑二寸高サ四尺五寸曲部一尺五寸ニシテ曲部ニハ二個ノ滑車緊垂部ヲ設ケタルモノ兩網船ニ各一個ヲ用

ユ

手元曳綱ハ麻徑三分五厘ノモノ兩端ニ各四十五尋ツ、合計九十尋トス

網船ノ構造 網船ノ構造ハ網ノ運用上ニ大ナル關係ヲ有スルモノニシテ關東地方ニ於テ使用スルモノト本縣下ノモノト

ハ其構造ニ異ナル點アルヲ以テ網具ノ試験ヲナスト同時ニ漁船モ亦其利害得失ヲ試験スルコト、シ千葉縣下九十九里地方ニ

於テ使用スル形ニ則リ之レカ製造ヲ縣下川邊郡東南方村枕崎船大工四元覺四郎ニ命シ工事中ハ場員ヲ派遣シテ監督ヲナサシ

メタリ

網船設計書

敷

松

總長 三十尺 内後敷八尺五寸

巾

洞接手 二尺六寸

表 二尺六寸二分軸ヨリ七尺五寸ノ處

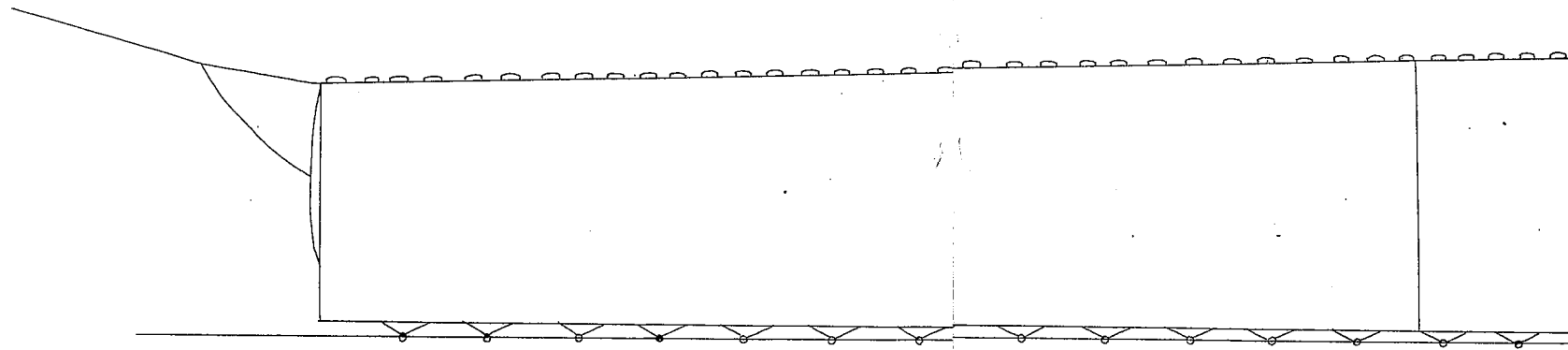
舳付根 五寸五分

網地配圖一分一

(ツ)	(ソ)	(シ)	(タ)	(チ)	(カ)	(ワ)	(ヲ)	(ル)	(ス)	(フ)	(ト)	(ヘ)	(ホ)	(ニ)	(ハ)	(四)	(イ)

子

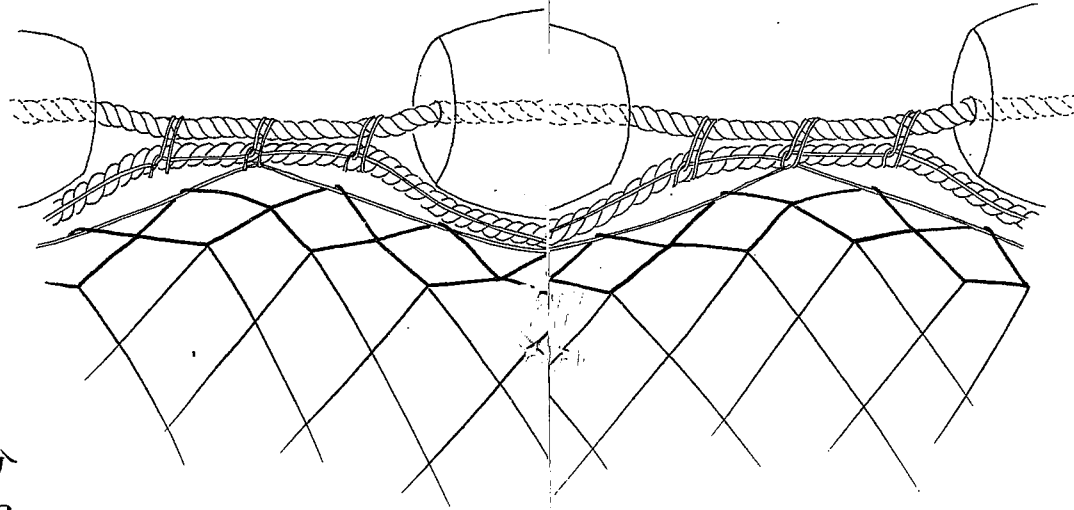
出表り圖



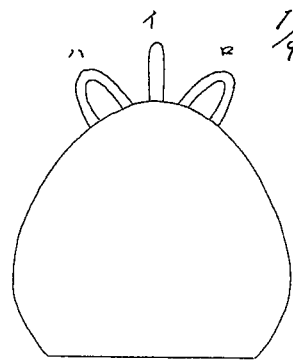
鯉巾着網圖

左右網共ニ同一ナルヲ以テ左網ノミヲ示ス
片網長サ百二十五間全長百五十間

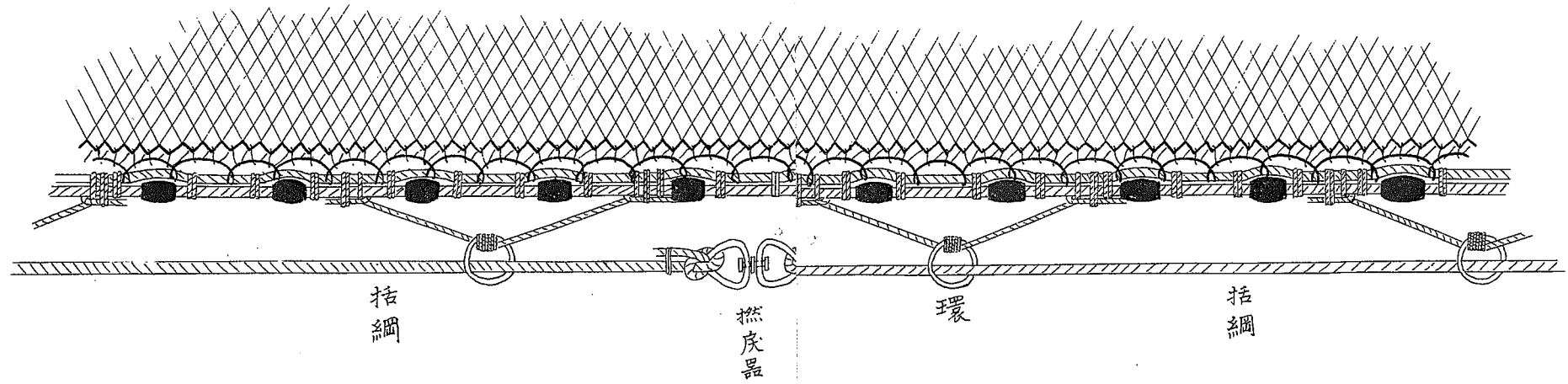
浮子分圖 $\frac{1}{4}$



分銅



中夾之圖



舷

三寸五分ツ、ノ張リ接手ヨリ三尺三寸ノ處

受尻

一尺五寸

後敷ノ立チ

九寸五分

前敷ノ反リ

二寸

厚

三寸八分

前後敷及ヒ舳ト敷ノ嵌接ハ五寸喰合セかま接トス

舳

用材

松

前口長

九尺

三ツ角

下ヨリ五尺

中

下

一尺三寸

付留

一尺五寸

厚

前口

五寸五分

前口張リ

一寸七分

勾配(高)

五尺

戸立

用材

杉

羽織巾着網試験

肩

上肩

上市

下市

厚

勾配

用材

厚

開

胴

腋

表

用材

厚

開

胴

表

五尺四寸

一尺ニ付七分ノかぶり

三尺

一尺五寸

二寸二分

一尺ニ付五寸

下棚

杉

二寸

九寸八分

九寸五分

九寸二分

上棚

杉

下棚ニ同シ

直立

一尺ニ付一寸六分ノ開キ

狭

一尺ニ付一寸ノかぶり

幅

胴

八尺三寸

表

八尺六寸

深

胴

三尺二寸五分

表

三尺五寸

艦ノ間

戸立ヨリ心距五尺五寸蹴上船梁高二寸巾二寸五分棚ノ外面ニ於テ栓ヲ以テ止ム

艦船梁ハ高四寸五分巾三寸棚ノ外面ニ割楔ヲ以テ止ム

狭ノ間トノ隔壁ハ二寸板ヲ以テ密水のニ釘着シ隔壁ノ上端ハ船梁ニ接ス

板子ノ高ハ狭ノ間トノ界ニ於テ上棚ノ上端ヨリ七寸艦ノ端ニ至レハ漸次下カル

狭ノ間

心距七尺ニシテ内火床間ハ二尺四寸トス

火床間ノ前方ニ肋材高二寸巾二寸五分ノモノヲ入レ之レニ梁ヲ架シ火床間板子ノ高ハ前方ニ於テ九寸トス

火床間ニアラサル部分ハ板子ノ高舷上端ヨリ七寸下リトス

「ゴウ」ノ道ハ松材ノ丈夫ナルモノヲ用ヒ高四寸五分巾二寸五分トシ兩材ノ間ハ筒ノ處ニテ五寸五分後方火床間ニ接スル處ニ

至レハ少シク大ニス可シ

筒ハ松材ニシテ厚二寸五分筒ノ傾斜ハ一尺ニ付八分トス

胴船梁ハ五寸五分角舷ノ上端ヨリ二寸下リトシ棚ノ外面ニ於テ割楔ヲ以テ止ム

下船梁ハ上梁ノ直下ヨリ少シク前方ニアリテ筒ノ下端ヲ支持ス高一尺許厚二寸五分上棚ノ下部通釘上五分隔テ其上ニ於テ棚外ニ出テ割楔ヲ以テ止ム

胴ノ間

心距六尺四寸ニシテ中央ニ高二寸巾三寸五分ノ肋材ヲ入レ之レニ高三寸五分巾二寸ノ横梁ヲ架シ之レニ二條ノ内なざりヲ縦架シ板子ヲ敷キ其高ハ上棚上端ヨリ七寸下リトス

表船梁ハ高四寸五分巾四寸ニシテ上棚上端ヨリ一寸下リニ設ケ舷外割楔ヲ以テ止ム

表船梁ノ直下ニ肋材巾三寸五分厚二寸ノモノ上方ハ上船梁下ニ達スルモノヲ入ル

網ノ間

心距六尺トシ板子ハ表船梁前面ニ於テ一尺五寸トシ敷ト平行ニ設ク即チ内なざり二條ヲ縦架シ之レニ依リテ支持セラル内おざりノ大サハ高三寸五分巾二寸トシ表船梁下ニアル肋材及網間前隔肋材ニ横架セル各横梁ニヨリテ支持セラル

網間前隔肋材ハ高二寸巾三寸五分トシ高敷ヨリ舷ニ達ス

表ノ間

網間ノ前隔肋材ト敷ノ前段トノ中央ニ肋材高二寸巾三寸五分ノモノヲ入ル

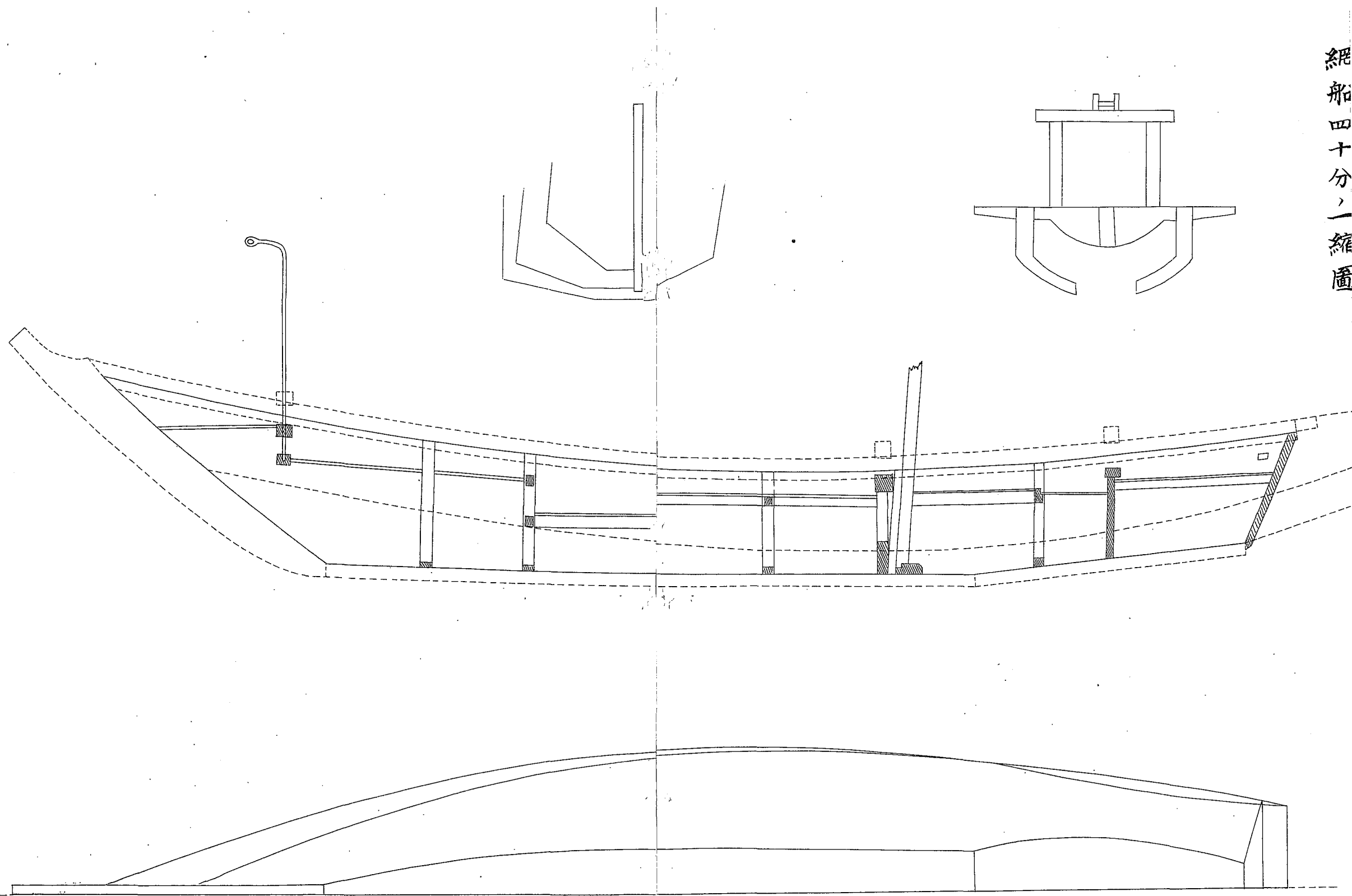
板子ハ網間ノ前隔ノ處ニテ上棚上端ヨリ七寸トス

二番かんぬきヲ上棚ノ上端下二寸付留ヨリ心距五尺六寸ノ處ニ設ケ其中央だびつと孔ヲ穿ツ而シテ梁ノ大サハ巾六寸高三寸トス

小縁

杉材ヲ用ヒ前後ニ通シタル一材ヲ以テ造ル巾舳ノ部ニ於テ一尺艦ノ末端ニ於テ五寸許厚ハ舳ノ部四寸五分艦ノ末端ニテ二寸

網船四十分一縮圖



トス

前記小縁ノ上面ニ樫材厚一寸許ノ上ノセラ釘着ス

船及床

船床

松材

船

樫材

長

一丈三尺

巾

下一尺六寸
水こしノ處一尺三寸

頸徑

五寸

厚

前面水こしノ處二寸五分
同下端一寸三分
後面八分

船床

松材五寸角ニシテ胴ヨリ表ノ方ハ網方ヲ返シろゝトス

立ッ

杉材ヲ用ヒ本立トス

網船貳艘新調見積書

一金六百七拾四圓〇六錢也

網船二艘及附屬品新調費

内譯

一金四拾圓也

網船貳艘新調見積書

敷用松材二艘分一艘ニ付四枚造上ケ巾二尺六寸二分以上厚三寸八分長三十尺計八枚一艘分金貳拾圓替

一金壹百八拾八圓八拾六錢也

棚用材杉二艘分一艘ニ付金九拾四圓四拾參錢替

一金四拾圓也

船梁用材肉松五寸角四拾角代壹角ニ付金壹圓替

一金拾八圓也

舳用材肉松二挺ニ付金九圓替

一金參拾六圓也

小縁用杉材ニツ割四本代一本ニ付金九圓替

一金八圓也

舵床用松材周圍五尺二寸二挺代一挺ニ付金四圓替

一金貳拾貳圓也

板子厚九分以上巾八寸以上用材十六間代一間ニ付金壹圓參拾七錢五厘替

一金五拾六圓也

船釘鐵製七十貫目代一貫目ニ付金八錢替

一金八圓也

飾金用銅板拾六枚代壹枚ニ付金五拾錢替但シ釘ヲ含ム

一金四圓也

漆喰「ロクシヨ」船墨等ノ代金

一金壹圓貳拾錢也

「チリ」用材「タブ」四挺代一挺ニ付金參拾錢替

一金拾圓也

檣床用松材五寸角拾角代壹角ニ付金壹圓替

一金四圓也

立用材松四角代壹角ニ付金壹圓替

一金拾圓也

小縁上面ニ釘着スル厚一寸ノ檣材二艘分一艘分ニ付金五圓替

一金六圓也

「ナギリ」用杉材四十本代一本ニ付金拾五錢替

一金壹圓也

「セビ」用材桑四個代一個ニ付金貳拾五錢替

一金拾圓也

舵檣材二挺代一挺ニ付金五圓替

一金九拾圓也

櫓木用材檣十八挺代一挺ニ付金五圓替但附屬品共一切仕上代

一拾五圓也

檣大二本一本ニ付金五圓替

檣小二本代一本ニ付金壹圓五拾錢替

帆船大二本一本ニ付金七拾錢替

帆船小二本一本ニ付金參拾錢替

一金六圓也

水樽杉製二個代一個ニ付金參圓替

一金拾圓也

造船場雨覆具借賃

一金九拾圓也

大工手間料壹百八拾人分壹日ニ付金五拾錢宛

試験地方ノ海況

本試験ヲナシタルハ川邊郡西加世田村及日置郡南半部ノ近海ニシテ野間岬附近ハ潮流極メテ急激ニ

シテ本網ノ使用ニ適セス米島以東高崎近海ハ時トシテ潮流非常ニ急馳ナルコトアレトモ常時如斯ナルニアラス水深二十尋以上底質ハ砂岩混交セルヲ以テ潮流底質等ニ付キテ意ヲ用ウレハ本網ヲ使用スルコト敢テ難キニ非ス大浦以北日置郡ノ沿海ハ悉ク遠淺ニシテ二三里ノ沖ニ至ルモ水深三十尋内外底質ハ稀ニ關礁ナキニアラサルモ多クハ砂地ニシテ潮流急ナラス最モ巾着網類ノ使用ニ適ス

此ノ近海ニ來遊スル水族ノ主ナルモノハ大ハ鯨類ヨリ鮪鯽ヲ首トシ鯉族鯛鯖鱈等ニシテ就中羽鯉ノ來遊ハ殆ト終年ニ互リ竿釣ほろびき大敷網ヲ以テ捕獲シ殊ニ晩春ヨリ初夏ノ候大敷網ニテ捕獲スルモノ大ナリ

試験ノ方法

凡ソ器具機械ハ其製作如何ニ巧緻ナルモノ之レヲ運用スルニ其人ヲ得サレハ良果ヲ收ムルコト能ハサルハ

敢テ言フ俟タサル處ニシテ漁業ノ如ク茫漠タル海中ニ於テ活物ヲ捕ヘントスルモノニ於テハ特ニ然リトス況ンヤ時ニ潮流風波等ノ妨害物襲來スルコトアルニ於テオヤ其思慮努力ヲ要スルコト實ニ名狀スヘカラサルモノアリ

本試験ノ結果ニ由リ實業者ノ之レニ倣フモノ起リシ曉ニ於テハ如何ニナシテ該網ヲ使用スヘキカ之レ大ニ考慮シ置カサル可

ラサル處ニシテ本場ハ茲ニ觀ル處アリ縣下各漁村ヨリ廣ク傳習生ヲ募集セシニ指宿郡山川村ヨリ七名同郡額娃村ヨリ二名薩摩郡下飯村平良ヨリ一名川邊郡西加世田村ヨリ三十一名ノ志望者アリシヲ以テ之ヲ採用シ且食費補助トシテ一人一日ニ付金拾貳錢及漁獲物ノ十分ノ三ヲ支給シ九月初旬ヨリ同下旬迄ニ網ノ縫合セ方附屬品ノ附設取扱方網ノ使用法網具保存上ノ注意等ヲ傳習セシメタリ

使用法 (説明ニ便宜上船ヲ舳ヒタルヲ右方ニ在ルモノヲ甲船左方ニ在ルモノヲ乙船ト假名ス)

本網ヲ使用スルニハ漁船トシテ一般ニ設備ヲ要スルモノ、外特ニ左ノ準備ヲナシ置カサル可ラス

一、網船ノ二番かんぬきニ「ダビット」ヲ立テ其曲部ヲシテ甲船ノモノハ左舷ニ乙船ノモノハ右舷ニ向ハシメ而シテ曲部先端ノ孔ニ強靱ナル網ヲ通シ其一端ヲ軸ニ固着セル鐵環ニ結附シ曲部ヲシテ二番かんぬきト平行ノ位置ヨリ艦ノ方ニ回轉セサ
ラシム

一、甲船ニ於テハ「ダビット」先端ノ孔ニ二重滑車ヲ緊結シテ分銅ノ使用ニ供シ曲部中央ノ環及艦船梁ニハ共ニ經七分網用滑車各一個ヲ緊結シ括網引揚ノ用ニ供ス乙船ニ於テハ分銅用ノ滑車ヲ要セサルヲ以テ他ノ二個ノ滑車ヲ緊結スルコト甲船ニ同シ

一、表舳網ハ徑一寸長凡ソ二尋ノモノヲ折返シテ二重トナシ之レヲ甲船ニ備ヘ置ク可シ

一、表舳網ハ經五分長凡ソ十尋許ノモノ及二重滑車單滑車各一個ツ、ヲ乙船ニ備ヘ置キ之ヲ使用スルトキハ單滑車ヲ乙船ニ結附シ二重滑車ヲ甲船ニ取リ以テ兩ヲ固舳スルノ用ニ供ス

一、表擲舳網ハ經一寸長凡ソ三尋許ノモノト經三四分長凡ソ五六尋許ノモノトニテ接合ハセ其太キ網ノ一端ヲ甲船ニ結附シテ備ヘ置キ其小ナル部分ハ甲船ヨリ乙船ニ擲與スルノ用ニ供ス

一、艦擲舳網ハ經四分長凡ソ十二三尋ノモノヲ乙船ヲ備ヘ置ク可シ

一、分銅ニハ其上頭部ニ三個ノ鐵環アリテ其中央ノモノニ單滑車ヲ緊結シ「ダビット」ニ附設セル二重滑車ト相待テ分銅ノ使

用ニ供シ左右ノ二環ニハ經七分網用滑車各一個ヲ緊結シ括網ヲ嵌通スルノ用ニ供ス

前記ノ諸準備ヲ成シ了レハ網ヲ中央ノはかいヨリ兩分シ二艘ノ船ニ各其一半ヲ積入ル其方法ハ先ツ手元綱ノ一端ヲ船梁ニ固ク結附シ（此網ノ結附方ハ決シテ忘ル可ラス然ラサレハ沖合ニ至リ不意ニ魚群ニ相遇シタルトキ大ナル過ヲ來シ一度網中ニ圍繞シタル魚モ遂ニ逃逸セシムルカ如キコトアルヘシ）次ニ浮子方及身網ヲ網間ニ沈子方ヲ表ノ間ニ漸次積入レ環ト括網トヲ能ク整ヘ置キ投網ノ時ニ當リ兩者相纏絡スル如キコトナカラシム可シ斯クシテ網ヲ積入レ了レハ一艘ニ海夫十五六名宛乗込ミ沖合ニ至リ兩船ヲ舫ヒテ網ヲ縫合ハセ魚群ヲ見レハ其遊泳ノ方向游足ノ遲速風位風力及潮流ニ就キテ能ク考慮ヲナシ（之レ等ハ大ニ實地ノ經驗ヲ要スルトコロニシテ茲ニ方式ヲ定メテ一概ニ明言スルコト能ハス）適宜ノ位置及ヒ距離ヲ測リ舫ヲ放チ極メテ迅速ニ且ツ可成の靜寂ニ網ヲ投入シテ魚群ヲ圍繞シ兩船相近ケハ（コノ時甲船ノ右舷ニ乙船來リ乙船ノ左舷ニ甲船來リ最初兩船ヲ舫ヒタルトキトハ正反對ノ位置トナル）凡ツ甲船ヨリ表擲舫網ヲ乙船ニ擲與シ乙船ハコノ網ヲ引キテ兩船ノ表部ヲ相接近セシメ網ハ固ク船梁等ニ結附ス又乙船ヨリハ艦擲舫網ヲ甲船ニ擲與シ甲船ハ此ノ網ヲ曳キテ兩船ノ艦部ヲ相接近セシメ網ハ船又ハ立等ニ固ク結附ス可シ而シテ此等ノ作業ヲナスト同時ニ乙船ニテハ「ダビット」及艦船梁ニ附設セル滑車ニ括網ヲ嵌通シ且ツ「ダビット」ト網トノ中間ニ於テ括網ニ充分ノ猶豫ヲ與ヘコノ部分ヲ持チテ自船ノ舫外ヨリ廻ハシテ甲船ニ與フ甲船ニ於テハコノ網ヲ更ニ自船ノ舫外ヨリ廻ハシテ左舷ニ持來リ分銅ノ滑車ニ嵌通セシメ之レト同時ニ自船ノ括網ヲモ分銅「ダビット」及艦船梁ノ滑車ニ嵌通セシメ然ル後分銅ヲ海中ニ投シ凡ソ網裾ト同一ノ深サニ達スル迄網ヲ伸ハス可シ

既ニ分銅ヲ投入シ了レハ兩船共ニ總員一濟ニ全力ヲ注テ括網ヲ曳キ網裾ノ蹄結ニ務ム然ルトキハ暫時ニシテ分銅ハ括網ノ張力ニ釣ラレ漸次水面近クニ上リ來ル可シ此時甲船ヨリ兩括網ヲ分銅ノ滑車ヨリ拔去リ分銅ハ船中ニ曳上ク括網ハ尙ホ兩船ニテ引クトキハ網ハ全ク絞締セラレ網裾ハ舫ノ直下ニ上リ來ル可シ此ニ於テ括網ヲ各滑車ヨリ拔去リ漸次網ヲ繰上ケ之レト同時ニ艦舫網ハ甲船ヨリ少シツ、繰伸バシ遂ニ全ク甲船ヨリ放擲シ乙船ニ繰取ル可シ而シテ網ヲ繰上ルニ隨テ網中ノ魚類ハ自

然下魚捕部ニ集メ以テ捕獲ヲシ網ヲ全ク線上ケテ環及括網ノ整理ヲナシ固ク舫ヲ施シ再ヒ魚群ノ搜索ニ從事ス

試驗日誌 前ニ記シタル如ク試驗地方ニ於ケル羽鯉來游ノ盛期ハ晩春ヨリ初夏ノ候ナルヲ以テ試驗場ノ設置セラル、ヤ

直ニ製網ノ準備ニ着手シ東京ニ於テ作成シタルニ同所ヨリ送附ノ途中神戸ニ於テ船便ノ都合上數日間延滞シ八月二十六日

ニ至リ漸ク到着シタルニ付キ目的物タル羽鯉ノ漁期ニハ既ニ後レタレトモ尙ホ目近及ヒそうだ鯉ノ來遊スルアルヲ以テ使用

ノ練習ヲ兼テ之レカ漁獲ヲ目的トシ九月初旬ヨリ同月下旬マテ試驗シ此間出漁スルコト十四日網ヲ使用スルコト十二回ニ及

ヒント雖魚群ノ來遊豫期ノ如ク多カラサルヲ以テ只網ノ用法等ヲ漁夫ニ傳習セシメタルノミニ止マレリ而シテ其試驗ノ日誌

左ノ左シ

日誌

月	日	時刻	漁場	天候	風位	風力	水深	湖	流	海水	投網	打廻時間	主ナル	記	事
九月	五日	八時十分前	廣曾根	快晴	北	軟	三三尋	西	緩	清	西	十七分	ナシ	初メテ網使用法ヲ傳習ス	
同	同	九時三十分	同	同	同	同	同	同	同	同	北	十九分	ナシ	括網燃リ強クシテ環ニ懸	
同	同	同	片浦灣内	同	同	同	一二尋	同	極緩	半濁	南	三十分	ナシ	得ス	
同	同	二時後	同	同	同	同	同	同	同	同	東北	十七分	ナシ	網ト環ト相纏絡シテ締結	
九月	六日				無	無								沖出チ休ミ網子場ノ手入	
九月	七日	九時前	廣曾根	同	北	軟	三五尋	西	緩	清	南東	十二分	ナシ	等チナス	
九月	八日	八時四十分前	同	同	西	同	同	北西	同	同	東	三十分	ナシ	餌付キノ魚群ヲ圍繞シタルモ括網用ノ滑車破損シタル爲完全ニ網ヲ引上ゲルコトヲ得ス	
九月	九日			晴	北東	同								魚群ニ相遇セサルヲ以テ網ヲ使用セス	

日誌

二十九

九月十日	九月十一日	九月十二日	九月十三日	九月十四日	同	九月十五日	九月十六日	九月十七日	九月十八日	九月十九日	九月二十日	九月二十一日	九月二十二日	九月二十三日	九月二十四日	九月二十五日	九月二十六日
	十午		八時四十分前	一午	九午	七時三十分前											
	新川口沖 合		久多島沖														
晴	曇	同	快晴	晴	同	同	快晴	同	曇	雨	曇	晴	曇	晴	同	同	曇
北	北微東	西	北	同	同	同	西	北東	北	東	北々東	北東	北東	北	同	北東	北
軟	和	軟	和	軟	同	同	同	同	疾	和	疾	和	強	疾	強	同	軟
	一七尋		三〇尋	二九尋	同	三〇尋	二八尋										
	北東		西	北東	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西			北西
	緩		極緩	同	同	同	同	同	極急	同	同	同	同	同	同	同	急
	清		清	同	同	同	同	同	半濁	同	同	同	同	同	同	同	清
	南		南東	同	東	同	南東										
	十七分		九二分	八七分	八八分	七七分	七七分	十六分									
	ナシ		だん丸 を二尾 かつか を二尾	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ									
網改修等ノ爲沖出チ休ム	焚入チナシタルニ鱒大ニ	群集シタルヲ以テ網チ使	目ヨリ逸出シ捕獲スルコ	下チ得ス	前夜々焚チナシ午前八時	歸港シタルヲ以テ沖出チ	ナサス	網裾浮子ニ懸リテ完全ニ	使用スルコトヲ得ス	魚群ノ遊足大ニ速シ	同	大魚群ヲ圍繞シタルモ網	裾ト括網ト相纏結シテ一	尾モ捕獲スルコトヲ得ス	網修復等ノ爲沖出チナサ	米島沖	同
	天候險惡ノ傾キアリ沖出	チナサス	廣曾根ニ至ルモ魚群ニ相	過セス	時化ノ爲沖出チナサス	時化ノ爲沖出チナサ	時化模樣ノ爲沖出チナサ	ス	時化ノ爲休業	同	久多島近海ニ至ルモ魚群	ニ相遇セス					